

平成23年度 広瀬川鳥類調査結果について



宮城県仙台土木事務所では、広瀬川をより安全で安心感のある河川にするため、河道内の中州、寄州の除去や樹木管理（伐採）を行っています。また、環境の変化が考えられる箇所については平成11年度より環境調査を実施し、貴重な動植物の生息・生育環境に配慮しながら整備を進めています。

■今年度の鳥類調査結果

平成23年度は夏季（8月）、秋季（10月）冬季（1月）に、広瀬橋から評定河原橋にかけて鳥類調査を実施し、合計で12目30科69種の鳥類を確認しました。主な確認種とレッドデータブック等で指定された重要な種は表-1に示すとおりです。

表-1 平成23年度調査で確認された主な鳥類と重要な種

水域の鳥	水面、水辺を利用する種	カイツブリ、カワウ、オオハクチョウ、オシドリ、マガモ、コガモ、オナガガモ、カワアイサ、オオバン、カワガラス等
陸域の鳥	水辺を利用する種	ゴイサギ、ササゴイ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、イカルチドリ、イソシギ、ユリカモメ、カワセミ、セグロセキレイ等
陸域の鳥	猛禽類	ミサゴ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ
	樹冠や藪、低木を利用する鳥	キジ、コゲラ、ビンズイ、タヒバリ、ジョウビタキ、ウグイス、オオヨシキリ、エナガ、ヤマガラ、メジロ、ホオジロ、アオジ等
陸域の鳥	雑木林、市街地を利用する鳥	キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、カケス、ハシトガラス等
重要な種	オシドリ	（環境省 RD：情報不足）
	ミサゴ	（環境省 RD：準絶滅危惧、宮城県 RD：準絶滅危惧）
	オオタカ	（環境省 RD：準絶滅危惧、宮城県 RD：準絶滅危惧）
	ハイタカ	（環境省 RD：準絶滅危惧、宮城県 RD：準絶滅危惧）
	ハヤブサ	（環境省 RD：絶滅危惧Ⅱ類、宮城県 RD：準絶滅危惧）
	オオバン	（宮城県 RD：要注目種）



注) RD はレッドデータブックの略

■平成23年度の樹木伐採について

今年度は、霊屋橋の上流右岸側において樹木伐採を行いました。今後も引き続き、評定河原橋にかけての一带において、樹木伐採を進めていく予定です。これまでと同様に鳥類調査も実施し、樹木伐採等の工事による鳥類相の変化について、継続的なモニタリングを行います。
 なお、樹木伐採等の工事にあたっては、以下の事項に留意することによって急激な環境変化を回避し、可能な限り生物への影響を低減するよう努めます。

- 適正な施工時期を設定します
 樹木伐採、中州掘削等の施工時期は、多くの鳥類の非繁殖期に相当する秋から冬頃の実施し、鳥類の繁殖への影響を低減するよう努めます。
- 土砂の流出を少なくします
 魚類、底生動物等の水生動物は、河床環境が大きく変化すると生息できなくなるおそれもあることから、施工時の土砂流出をできるだけ少なくするよう努めます。
- 類似環境を保全します
 治水上、支障とならないと考えられる樹木等は極力残すなど、鳥類をはじめとした生物の生息生育環境を確保し、河川改修による影響の低減を図ります。



■中州の樹木伐採や土砂撤去による鳥類相への影響

平成21年度より、愛宕堰下流の中州において樹木伐採や土砂の撤去を段階的に進めています。鳥類調査も継続的に実施し、工事による影響についてモニタリングを行っています。工事の実施状況と鳥類調査地点は図-1に示すとおりです。

中州を含めた広域調査（広瀬橋～愛宕橋）の結果、確認種数に多少の変動はみられますが、工事着手前の平成21年と比べて減少傾向にあるグループはなく、当地域の鳥類相に対し、工事の影響はほとんどなかったものと考えられます（図-2）。

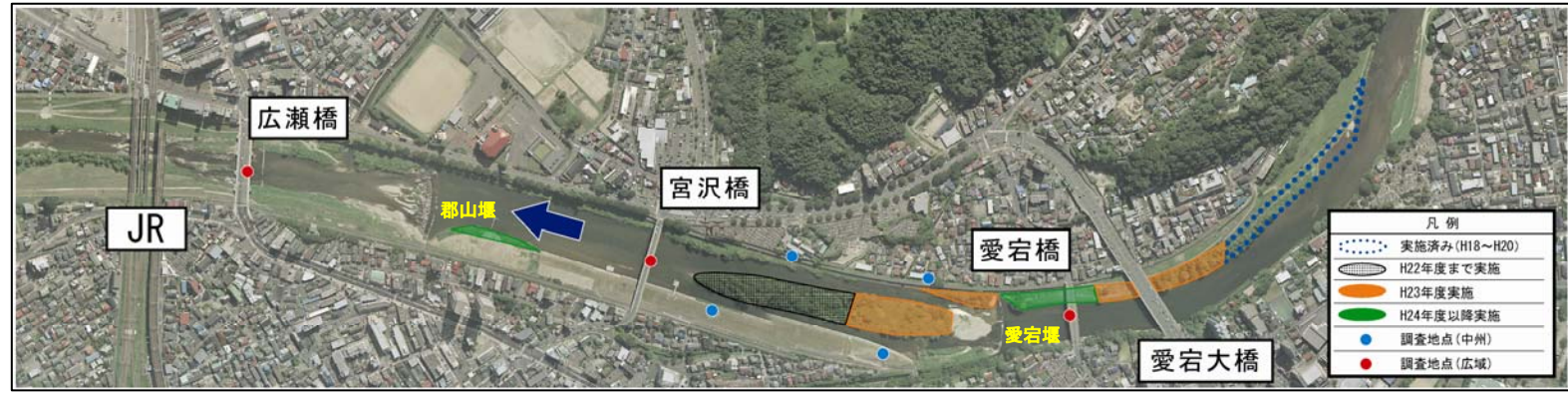


図-1 中州周辺の工事状況と鳥類調査地点

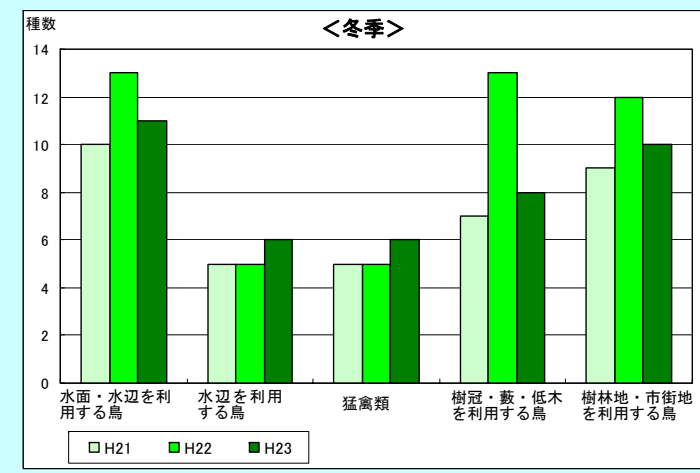
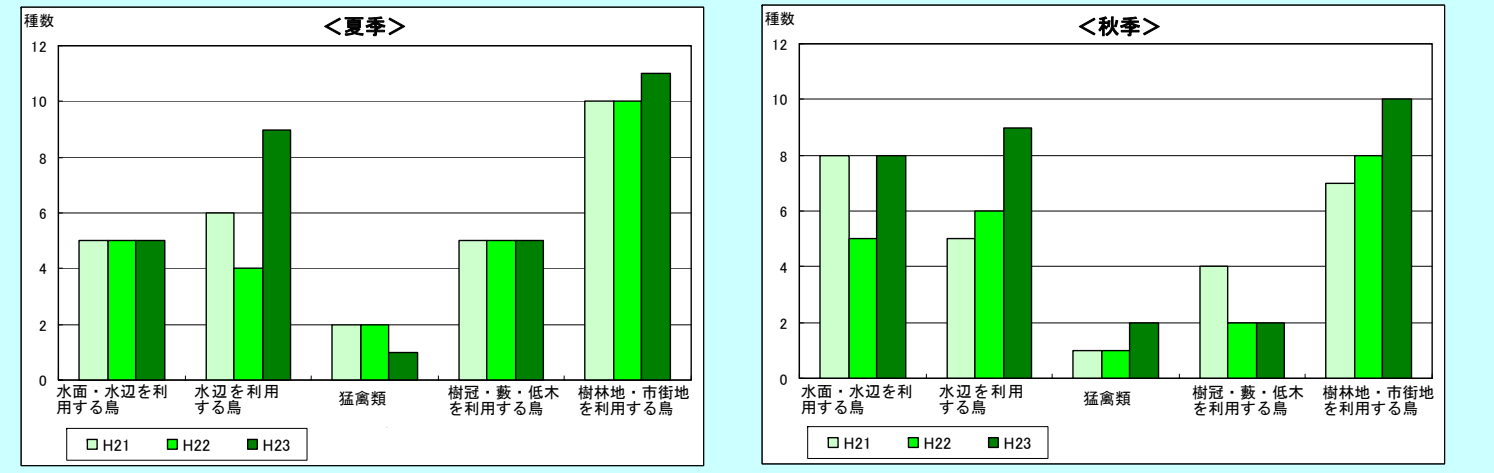


図-2 広瀬橋～愛宕橋における調査結果の比較 (H21～H23 夏季・秋季・冬季)



樹木伐採、土砂撤去による中州の環境の変化